

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担 当 課	KPI（成果指標①）							KPI（成果指標②）							予算額 （千円）	決算額 （千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性				
					事業目標	目標 年度	基準値	基準 年度	目標値	実績値	達成率	事業目標	目標 年度	基準値	基準 年度	目標値	実績値	達成率									
Ⅰ「稼げるまち」の実現																											
介護離職の減少に向けた 介護サービスの充実	1	介護サービス 等給付費（在 宅サービスの 提供）	高齢者が支援や介護が 必要になっても、住み慣 れた地域で日常生活を営 むことができるよう、訪 問介護・通所介護などの 在宅サービス・地域密着 型サービスの提供を行 う。	介護 保険 課	在宅サービ スの 利用人数	R7	35,392 人	R5	36,902	人	36,009	人	97.6%								51,740,773	49,905,174	概ね 順調	「北九州市しあわせ長寿プラン」に基づき、 地域密着型サービス（定期巡回・随時対応型訪 問介護看護、小規模多機能型居宅介護、看護小 規模多機能型居宅介護）の整備は概ね予定どお り進捗しており、在宅サービス利用者の数も増 加していることから、「概ね順調」と判断し た。	継続		
	2	先進的介護 「北九州モデ ル」推進事業	介護現場の働き方改革 を推進するため、ICT・介 護ロボット等を活用した 業務改善手法「北九州モ デル」の市内介護施設へ の普及を図り、先進的介 護の実効性を高める。 また、介護助手活用モ デルの社会実装による先 進的介護の深化・拡充に 取り組むとともに、在宅 版「北九州モデル」の構 築を推進する。	先進 的介 護シ ステ ム推 進室	介護ロボッ ト等導入施 設数	R7	117件	R4	140	件	166	件	118.6%								57,300	53,173	順調	介護現場の働き方改革を推進するため、市内 5か所の介護施設にICT・介護ロボット等を活用 した「北九州モデル」の導入を含む職場改善支 援を実施した。 また、北九州市介護ロボット等導入支援・普 及促進センターによる北九州モデルの情報発信 や、「介護ロボットマスター育成講習」の実施 により、介護ロボット等の導入施設数は目標を 上回る結果となった。以上の理由により「順 調」と判断。 今後も引き続き市内介護施設の現場ニーズに 沿った介護ロボット等の普及を図ることが必要 である。	継続		
多様な人材（高齢者、 外国人）の活用による人 材確保	3	外国人介護人 材育成支援	外国人介護人材の介護 福祉士の資格取得やスキ ルの向上を支援し、介護 の質の向上を図るととも に、介護分野への外国人 の就労・定着を促進す る。	介護 保険 課	介護福祉士 合格率	R7	—	—	30.0	%	13.3	%	44.3%								2,500	2,093	遅れ	介護福祉士国家試験の合格を目指すコースと 介護現場のスキルアップ向上を目指すコースの 2コースを開講した。講座受講外国人数は目標 値（30人）達成。令和6年度の介護福祉士国家 試験合格率は13.3%（受講者15名中2名合格） と全国並みであったが、目標値30%の半数以下 となった。合格率を高めるため、令和7年度で は外国人介護人材の介護福祉士取得コースに特 化して本事業を行う予定である。	継続		
市内企業における「健康 経営」の意識の拡大	4	地域・職域連 携の推進	就労世代の健康づくり や事業所における健康経 営を推進するため、「地 域保健」と「職域保健」 を推進する団体で設置し た会議において、市域の 健康課題やそれぞれの取 組を共有し、効果的・効 率的な官民協働の取組を 進める。	健康 推進 課	健康経営を 推進する市 内企業等の 増加	R9	1,464事 業所	R5	1,550	事業 所	1,559	事業 所	100.6%								2,000	1,939	順調	令和6年度は「北九州市働く世代の健康づく り推進会議」を設置。健康づくりに関する小規 模事業場への実態調査を行うとともに、課題や ニーズの把握等を行うなど、働く世代の健康づ くりの促進に向けた取組を着実に進めている。 また、「健康経営を推進する市内企業等の数」 も増加している。今後、健康づくり活動を実践 している民間企業とも連携・協働し、健康経営 や検診の受診促進に取り組んでいく。	拡充		
Ⅱ「彩りあるまち」の実現																											
彩りある文化・芸術によ るにぎわいの推進	5	障害者文化芸 術活動等推進 事業	障害者の文化芸術活動 の振興を図るため、作品 展等障害者の文化芸術活 動の発表の場を設けると ともに、障害者の創意意 欲を助長するための必要 な支援を行う。 また、とくく家に閉じ こもりがちでサービスを 受ける立場になりがちな 障害者が、地域社会へ一 歩踏み出し、社会の一員 として自立するためのさ まざまな支援事業を行 う。	障害 福祉 企画 課	障害者芸術 祭への作品 出展数	R7	268点	R5	280	点	299	点	106.8%	障害者芸術 祭来場者数	R7	1,200人	R5	1,200	人	800	人	66.7%	8,100	7,915	概ね 順調	障害者芸術祭への作品出展数は、過去最高の 299点となり、障害のある方に芸術祭を認知し ていただき、芸術作品を展示する機会を提供す ることができた。 しかし、障害者芸術祭の来場者数について は、目標値1,200人に対して800人にとどまり、 多くの市民に障害のある方の文化・芸術に親し んでもらうことができなかった。 今後も、障害者芸術祭に限らず、障害のある 方の文化・芸術を通じて障害のある方の社会参 加の促進に努める。	継続
スポーツによるにぎわい づくり	6	障害者スポー ツ振興事業	スポーツを通じて障害 のある人の体力の維持・ 向上や、機能回復等を図 るとともに、社会参加を 促進するため、市内の障 害者スポーツ大会開催、 障害者のためのスポーツ 教室や水泳教室の開催に 必要な支援を行う。	障害 福祉 企画 課	障害者スポ ーツ教室 参加者数	R7	1,033人	R5	1,100	人	1,163	人	105.7%	障害者スポ ーツ教室 新規参加者 数	R7	233人	R5	250	人	503	人	201.2%	51,760	50,624	順調	障害者スポーツ教室参加人数については、令 和5年度を上回る1,163人となり、新規の参加者 は約半数を占めた。新規の参加者が多かったこ とは、障害のある方の社会参加の促進に繋がっ たと考えられる。今後も継続してスポーツに親 しんでいただけるよう、スポーツ教室の開催場 所や内容について関係団体と連携を図る。	継続

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担 当 課	KPI（成果指標①）							KPI（成果指標②）							予算額 （千円）	決算額 （千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性		
					事業目標	目標 年度	基準値	基準 年度	目標値	実績値	達成率	事業目標	目標 年度	基準値	基準 年度	目標値	実績値	達成率							
Ⅲ「安らぐまち」の実現																									
人権文化のまちづくり	7	市民への人権啓発の推進	「人権文化のまちづくり」の実現に向けて、様々な手法を活用し、幅広く市民への人権啓発を推進する。	人権文化推進課	「人権尊重意識の5～6年前との比較で高まっている」と回答した割合（人権問題に関する市民意識調査）	R7	19.7%	R2	—		—		—								74,528	69,940	順調	人権啓発事業の参加者数は目標を大きく上回り（目標：11,343人、実績：54,739人）、より多くの市民に向けて啓発を実施できたため「順調」と判断。	継続
地域包括ケアシステムの 深化・推進	8	生活支援体制整備事業	地域福祉活動の基盤を整備するため、地域支援コーディネーターを各区に配置することなどにより、住民主体による地域の支え合い活動の計画づくりを支援する。 地域特有の課題と資源を踏まえ、助け合い活動、買い物支援、高齢者サロン等の新たな社会サービスの創出を図る。	地域福祉推進課	小地域福祉活動計画の策定校(地区)数	R7	95箇所	R4	115箇所	141箇所	122.6%										116,000	113,137	順調	住民主体による見守り・支え合いを実現するために、懇切丁寧な説明と地域支援コーディネーター等によるきめ細やかな支援を行っているが、地域住民の合意形成のもと助け合いの土壌を醸成するには相応の時間を要する。 今後も、さまざまな団体との顔の見えるネットワークづくりを進め、新たな活動の担い手や地域資源の発掘に取り組む。	継続
	9	地域包括支援センターの運営	地域包括ケアシステムの構築を進めるため、総合相談や権利擁護、包括的支援、介護予防ケアマネジメント等の機能を担う、市内24の地域包括支援センターと、7の統括支援センターを設置、運営する。	地域福祉推進課	地域包括支援センターの認知度（北九州市高齢者等実態調査：3年毎）	R7	47.1%	R4	—	—	—										858,500	774,870	順調	地域包括支援センターの相談件数は、微減（R5：218,699件→R6：216,712件）となっているが、全ての相談に対し適切に対応している。 また、地域ケア会議の開催回数も、微減（R5：580回→R6：568回）となっているが、発生した全ての検討事案に対し適切に対応している。 現場の地域包括支援センターによると、相談や検討事案の減少は実感としては感じられないことから、地域包括支援センターの運営及び地域ケア会議の開催は、令和5年度と同様に順調と判断する。 今後も引き続き、地域包括ケアシステムの深化・推進のため、地域包括支援センターの適切な運営に努める。	継続
	10	地域リハビリテーション支援体制推進事業	高齢者や障害のある人、その家族が住み慣れたところでその人らしくいきいきとした生活ができるよう、地域リハビリテーション支援拠点を設置するとともに、医療機関や介護サービス事業所等の協力を得て、身近な地域でリハビリテーションに関する相談や支援が受けられる体制を構築する。	地域リハビリテーション推進課	支援センターへの相談件数	R8	403件	R5	550件	429件	78.0%	地域ケア個別会議や高齢者サロン等の地域活動の回数	R8	498回	R5	550回	513回	93.3%	35,700	35,157	概ね順調	地域リハビリテーション支援センターへの相談件数や地域ケア個別会議及び高齢者サロン等の活動回数は目標件数を下回るが、令和5年度と比較し相談及び派遣件数は増加傾向であるため「概ね順調」と判断。	継続		
	11	認知症にやさしいまちづくり事業	認知症の人やその家族が住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを推進する。	認知症支援・介護予防課	認知症と聞いて、家族に迷惑をかけそうで心配である人の割合（北九州市高齢者等実態調査：3年毎）	R8	53.9%	R4	—	—	—	認知症になっても自宅で生活を続けられるか心配である人の割合（北九州市高齢者等実態調査：3年毎）	R8	42.2%	R4	—	—	—	65,320	45,514	順調	認知症サポーター養成講座については、公共施設や企業等での開催を継続しつつ、令和6年度は新たに放課後児童クラブにおいても講座を開催した。若い世代の方々にも認知症について理解を深めていただいた結果、事業目標の受講者数11万人達成につながった。	継続		

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担当 課	KPI（成果指標①）								KPI（成果指標②）								予算額 （千円）	決算額 （千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性	
					事業目標	目標 年度	基準値	基準 年度	目標値		実績値		達成率	事業目標	目標 年度	基準値	基準 年度	目標値		実績値						達成率
支え合いのネットワーク づくり（地域共生のまち づくり）	12	介護サービス 等給付費（在 宅サービスの 提供）	高齢者が支援や介護が 必要になっても、住み慣 れた地域で日常生活を営 むことができるよう、訪 問介護・通所介護などの 在宅サービス・地域密着 型サービスの提供を行 う。	介護保 険課	在宅サー ビスの 利用人数	R7	35,392 人	R5	36,902	人	36,009	人	97.6%									51,740,773	49,905,174	概ね 順調	「北九州市しあわせ長寿プラン」に基づき、 地域密着型サービス（定期巡回・随時対応型訪 問介護看護、小規模多機能型居宅介護、看護小 規模多機能型居宅介護）の整備は概ね予定どお り進捗しており、在宅サービス利用者の数も増 加していることから、「概ね順調」と判断し た。	継続
	13	在宅医療の普 及促進	患者の希望に沿った在 宅医療サービスの提供が なされるよう、在宅医療 の環境整備を推進する。	地域医 療課	在宅療養支 援病院・診 療所数	R8	191か所	R5	R5年度 比増		198	か所	103.7%									97,500	97,461	順調	在宅医療・介護連携支援センターによる在宅 医療に関する相談支援、在宅医療新規参入・拡 充のための医師向け研修会を実施した。また、 多職種情報共有ツール（病院窓口ガイド）作 成、医療・介護連携ルールや「とびうめ@きた きゅう」の普及啓発を行った。 在宅療養支援病院・診療所数が目標値を上 回った（目標：191か所、実績：198か所）こ とから「順調」と判断。 今後さらに在宅医療の理解促進、在宅医療資 源の増加を目指し、啓発活動に積極的に取り組 む。	継続
	14	いのちをつな ぐネットワー ク事業	単身高齢者などの支援 を必要としている人が社 会的に孤立しないよう、 住民、企業、行政等の地 域全体で見守りを行う 「いのちをつなぐネット ワーク」を推進する。	地域福 祉推進 課	いのちをつ なぐネット ワーク協力 会員の団体 数の増加	R7	86企 業・団 体	R5	R5年度 比増		87	企 業・団 体	101.2%										20,500	19,514	順調	担当係長の活動回数は減少（R5：2,276回→ R6：1,970回）しているものの、見守りのネッ トワーク基盤であるいのちをつなぐネットワ ーク協力会員は増加しており、見守りネットワ ークの構築に向け、順調に進展している。今後 も、支援を必要とする人が社会的に孤立しない よう、住民・企業等と連携しながら、見守り ネットワークの推進に努める。
	15	福祉ボラン ティア活動の 推進	北九州市社会福祉協議 会が行うボランティアの 活動推進事業に対する補 助事業。 ボランティア・市民活 動センターにおいて、目 的や対象に応じた講座の 実施や、ボランティア コーディネート、ボラン ティア団体の活動支援、 関係機関との連携による 情報収集・発信等を行 う。	地域福 祉推進 課	ボランティ アコーデ ィネートの件 数	R7	4,386件	R4	5,100	件	4,918	件	96.4%									50,600	50,595	概ね 順調	継続的なボランティアの啓発や活動支援によ り、ボランティア登録団体数及びボランティア 人口は、令和5年度と同程度（R5：616団体・ 18,479人→R6：612団体・18,189人）の成果が 出ており、ボランティアコーディネートの件数 も順調に増加している。ボランティア活動の推 進を図るため、引き続き補助事業を行い、ボラ ンティア活動の活性化に寄与していく。	継続
	16	認知症にやさ しいまちづく り事業	認知症の人やその家族 が住み慣れた地域で安心 して暮らせるまちづくり を推進する。	認知症支 援・介護 予防課	認知症と聞 いて、家族 に迷惑をかけ そうで心配である人 の割合（北 九州市高齢 者等実態調 査：3年毎）	R8	53.9%	R4	—		—		—	認知症にな っても自宅 で生活を 続けられる か心配である 人の割合 （北九州市 高齢者等実 態調査：3 年毎）	R8	42.2%	R4	—		—		65,320	45,514	順調	認知症サポーター養成講座については、公共 施設や企業等での開催を継続しつつ、令和6年 度は新たに放課後児童クラブにおいても講座を 開催した。若い世代の方々にも認知症について 理解を深めていただいた結果、事業目標の受講 者数11万人達成につながった。	継続
介護サービスの質・生産 性の向上	17	介護シェアリ ング都市推進 事業	北九州市が高齢化大都 市のフロントランナーと して、介護業界に携わる 関係人口を増やし、あら ゆるリソースを動員して 介護サービスを支える仕 組みを構築する「介護 シェアリング都市」の実 現を目指し、介護人材確 保に繋がる様々な施策を 展開する。	介護保 険課	スケッター 参加事業所 数	R7	—	—	10	事業 所	28	事業 所	280.0%									12,400	11,945	順調	介護人材のすそ野を拡大し、多様な人材の参 入促進につなげることを目指すため、①介護の しごとに対するネガティブイメージ（キツイ仕 事・安い給料・高い離職率等）を払拭し、介護 職に対する認知度の向上やイメージアップに向 けた情報をSNS等で発信。若手介護職員等を対 象としたワークショップを開催し、介護人材不 足の解消に向けた取組を検討していきながら、 若手介護人材のネットワークづくりやコミュニ ティ形成をサポート。②スケッターによる介護 未経験者マッチング促進を行った。 みらいつなぐHP閲覧ビュー数（目標：10,000 回、実績：10,879回）、スケッター参加事業所 数ともに目標値達成。	継続

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担 当 課	KPI（成果指標①）							KPI（成果指標②）							予算額 （千円）	決算額 （千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性		
					事業目標	目標 年度	基準値	基準 年度	目標値		実績値		達成率	事業目標	目標 年度	基準値	基準 年度	目標値						実績値	
	18	先進的介護 「北九州モデル」推進事業	介護現場の働き方改革を推進するため、ICT・介護ロボット等を活用した業務改善手法「北九州モデル」の市内介護施設への普及を図り、先進的介護の実効性を高める。 また、介護助手活用モデルの社会実装による先進的介護の深化・拡充に取り組むとともに、在宅版「北九州モデル」の構築を推進する。	先進的介護システム推進室	介護ロボット等導入施設数	R7	117件	R4	140 件		166 件	118.6%									57,300	53,173	順調	介護現場の働き方改革を推進するため、市内5か所の介護施設にICT・介護ロボット等を活用した「北九州モデル」の導入を含む職場改善支援を実施した。 また、北九州市介護ロボット等導入支援・普及促進センターによる北九州モデルの情報発信や、「介護ロボットマスター育成講習」の実施により、介護ロボット等の導入施設数は目標を上回る結果となった。以上の理由により「順調」と判断。 今後も引き続き市内介護施設の現場ニーズに沿った介護ロボット等の普及を図ることが必要である。	継続
医療提供体制の維持・確保、在宅医療の普及・促進	19	救急医療体制の維持・確保	夜間や休日における救急医療体制を維持・確保する。	地域医療課 夜間・休日急患センター第2夜間・休日急患センター	救急医療体制の維持	—	—	—	—		医師会をはじめとする関係機関との連携を図り、救急医療体制を確保	—									1,133,404	1,148,241	順調	医師会、医療機関、行政の連携のもと、夜間・休日急患センターの運営や救急医療体制確保に係る委託事業を実施し、一次から三次までの救急医療体制を確保できた。 今後も、医師の働き方改革など医療を取り巻く課題等を注視しながら、救急医療体制の確保に取り組む。	継続
	20	総合周産期母子医療センター、小児救急・小児総合医療センターの運営	【総合周産期母子医療センター（市立医療センター内）】 ・出生前から出産後まで母子に対する専門的な医療を24時間体制で提供する。 【小児救急・小児総合医療センター（市立八幡病院に併設）】 ・1次（初療）から3次（重篤）までの救急医療を24時間体制で提供する。	地域医療課	医療体制の確保・充実	—	—	—	—		必要な医師の確保や必要な医療器械を更新し、医療体制を確保	—									1,088,554	1,137,853	順調	総合周産期母子医療センターでは、24時間体制での周産期医療の提供、ハイリスク分娩患者の優先的な受け入れを行うことができた。また、小児救急センターでは、24時間体制での小児救急医療の提供を行うことができたため、「順調」と判断。 今後も、出生数の低下や働き方改革による医師の負担軽減の必要性に留意しながら、医療体制の確保・充実に取り組む。	継続
	21	在宅医療の普及促進	患者の希望に沿った在宅医療サービスの提供がなされるよう、地域の専門職の参画促進や訪問看護の充実強化等、在宅医療の環境整備を推進する。	地域医療課	在宅療養支援病院・診療所数	R8	191か所	R5	R5年度比増		198 か所	103.7%									97,500	97,461	順調	在宅医療・介護連携支援センターによる在宅医療に関する相談支援、在宅医療新規参入・拡充のための医師向け研修会を実施した。また、多職種情報共有ツール（病院窓口ガイド）作成、医療・介護連携ルールや「とびうめ@きたきゅう」の普及啓発を行った。 在宅療養支援病院・診療所数が目標値を上回った（目標：191か所、実績：198か所）ことから「順調」と判断。 今後さらに在宅医療の理解促進、在宅医療資源の増加を目指し、啓発活動に積極的に取り組む。	継続
	22	精神保健夜間休日救急体制の整備・確保	夜間・休日の精神医療相談窓口を設置し、精神障害のある人及び家族等からの相談に対応する。 福岡県と政令市（福岡市、北九州市）が共同で夜間・休日の精神科緊急・救急医療体制（24時間365日）を整備する。	精神保健・地域移行推進課	精神障害のある人及び家族等からの相談に対する問題解決率（適切な情報提供及び助言）95%以上	R7	94.0%	R5	94.0 %		93.0 %	98.9%									35,300	36,007	概ね順調	夜間・休日における精神障害者及び家族等からの緊急的な精神医療相談に対応可能な窓口を設置し、必要に応じて医療等に繋げる体制の整備を行った。精神障害のある人及び家族等からの相談（年間1,900件）に対する問題解決率は、目標は下回ったものの、高い水準で推移している。また、医療体制については、福岡県と政令市（福岡市、北九州市）が共同で整備しており、安定的な運用ができていることから、「概ね順調」と判断。	継続

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担 当 課	KPI（成果指標①）							KPI（成果指標②）							予算額 （千円）	決算額 （千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性			
					事業目標	目標 年度	基準値	基準 年度	目標値		実績値		達成率	事業目標	目標 年度	基準値	基準 年度	目標値						実績値		達成率
ソーシャル・キャピタル （地域における繋がり） の強化	23	新たなつながりによる支え 合い（ソー シャルキャピ タル）創出事 業	地域活動の担い手が減少 する中、若い世代やNPO 団体などと地域活動との 橋渡しを行い、社会全体 の新たな形でのつながり （ソーシャルキャピタル） を創出する。	地域福祉 推進課	関係団体との連携により、 地域課題が解決した地域団体	R6	—	—	2	団体	0	団体	0.0%									3,000	2,494	遅れ	地域団体とNPO等団体との連携支援に取り組み、3つの地域団体がNPO等の団体との連携による地域福祉活動を開始したが、地域課題の解決には至らなかった。今後も継続して連携支援及び伴走支援に取り組む。	継続
健康寿命の延伸・健康格 差の縮小	24	地域・職域連 携の推進	就労世代の健康づくりや事業 所における健康経営を推進す るため、「地域保健」と「職域 保健」を推進する団体で設置 した会議において、市域の健 康課題やそれぞれの取組を共 有し、効果的・効率的な官民 協働の取組を進める。	健康推 進課	健康経営を推進する市内企 業等の増加	R9	1,464事 業所	R5	1,550	事業 所	1,559	事業 所	100.6%									2,000	1,939	順調	令和6年度は「北九州市働く世代の健康づくり推進会議」等を3回開催し、構成団体と取組の共有、意見交換を通して令和7年度以降の事業方針を決定した。また、実態調査より小規模事業場の健康づくりにおける課題や意識、ニーズ等を把握した。地域・職域連携の推進については会議の構成団体の情報や取組を共有し、連携した取組を行う準備ができている段階にあると評価した。「健康経営を推進する市内企業等の数」は増加しており、目標値も達成したが、今後は健康づくり活動を実践している民間事業所とも連携・協働し、より効果的・効率的な取組を展開しながら更なる健康経営の機運の醸成を図っていきたいと考える。	拡充
	25	各種健診（検 診）の実施	生活習慣病の予防等のため、 特定健診やがん検診等の実施、 及び各種健診（検診）の受診 促進を行う。	健康推 進課	メタボリックシンドロームの 該当者及び予備軍の減少	R11	34.9%	R4	34.6	%	集計中		—	がんの年齢調整死亡率（10万人 あたり）の減少	R7	男性：444.7 女性：205.2	R2	—		—	—	1,312,381	1,240,273	概ね 順調	特定健診やがん検診等、各種健診（検診）を計画通り実施するとともに、働く世代の受診促進や集団検診の予約時期の前倒しなど、受診率向上に向けた取組も進めており、「概ね順調」と判断した。今後も、市医師会や民間企業と連携し、生活習慣の改善やがんの早期発見等に取り組んでいく。	継続
	26	オーラルヘル スの推進	歯科疾患の予防等のため、生 涯を通じた歯科健（検）診等 を実施する。	健康推 進課	3歳児でむし歯のない者の割 合の増加	R9	87.7%	R4	89.7	%	88.8	%	99.0%	かかりつけ歯科医がいる者の 割合の増加（40～64歳）	R10	69.0%	R4	—	—	—	—	108,691	105,453	概ね 順調	3歳児歯科健康診査の受診率は令和4年度に比べて減少（R4：67.9%→R6：66.5%）したが、3歳児でむし歯のない者の割合は令和4年度に比べて増加していることから「概ね順調」と判断した。	継続
高齢者の社会参加の推進	27	地域介護予防 活動実践者支 援事業	市民が身近な地域で健康づく りや介護予防に取り組めるよ う、「きたきゅう体操」「ひま わり太極拳（タイチー）」「公 園で運動教室」等の普及教室 を開催する。また、地域にお けるリーダー（普及員）の育 成・支援を行い、自主化・継 続化を推進する。	認知症 支援・ 介護予 防課	通いの場に 参加した人 の割合（介 護予防・日 常生活圏域 ニーズ調査）	R8	19.3%	R4	23.0	%	—	—									33,500	27,519	順調	「きたきゅう体操」「ひまわり太極拳（タイチー）」「公園で健康づくり」において普及員養成講座を実施し、29人の普及員を養成することができた。今後も市民が身近な地域で健康づくりや介護予防に取り組めるよう普及員の育成・支援を継続して行う。	継続	
	28	高齢者地域人 材育成の推進	年長者研修大学校（周望学舎・ 穴生学舎）及び北九州穴生ド ーム、並びに生涯現役夢追塾 の運営や、高齢者の社会参加 を促進する情報の総合的な収 集・提供、マッチング、相談 対応を行う「いきがい活動ステ ーション」の運営などを通して 、地域で活躍する高齢者人材 を育む。あわせて、既存事業 のあり方を見直し、地域活動 ・就業・生涯学習の推進など 横断的な生涯現役応援の仕組 みづくりに着手する。	長寿社会 対策課	地域活動について、「行ってい る」と回答した人の割合の増 加（年長大利用者アンケート）	R8	42.0%	R5	45.0	%	45.5	%	101.1%									204,909	205,350	順調	いきがい活動ステーションのホームページ・SNS利用件数と、地域活動について、「行っている」と回答した人の割合は、ともに達成しており、「順調」と判断。一方、地域における支援を必要とする人の増加が今後も見込まれる中、高齢者が経験や知識を活かして、支える側としての活躍を続けることが求められる。また、年長者研修大学校や生涯現役夢追塾においては開設当時の時代の変化や求める成果との乖離等の課題がある。学びを実践に活かす仕組みづくりや就業・デジタル活用など幅広く生涯現役の活躍を推進する今後のあり方を検討し、見直しを行う必要がある。	拡充

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担 当 課	KPI（成果指標①）							KPI（成果指標②）							予算額 （千円）	決算額 （千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性				
					事業目標	目標 年度	基準値	基準 年度	目標値		実績値		達成率	事業目標	目標 年度	基準値	基準 年度	目標値						実績値		達成率	
障害のある人の社会参加 の推進	29	障害者文化芸術活動等推進 事業	障害者の文化芸術活動の振興を図るため、作品展等障害者の文化芸術活動の発表の場を設けるとともに、障害者の創意意欲を助長するための必要な支援を行う。 また、とかく家に閉じこもりがちでサービスを受ける立場になりがちな障害者が、地域社会へ一歩踏み出し、社会の一員として自立するためのさまざまな支援事業を行う。	障害福祉企画課	障害者芸術祭への作品出展数	R7	268点	R5	280	点	299	点	106.8%	障害者芸術祭来場者数	R7	1,200人	R5	1,200	人	800	人	66.7%	8,100	7,915	概ね順調	障害者芸術祭への作品出展数は、過去最高の299点となり、障害のある方に芸術祭を認知していただき、芸術作品を展示する機会を提供することができた。 しかし、障害者芸術祭の来場者数については、目標値1,200人に対して800人にとどまり、多くの市民に障害のある方の文化・芸術に親しんでもらうことができなかった。 今後も、障害者芸術祭に限らず、障害のある方の文化・芸術を通じて障害のある方の社会参加の促進に努める。	継続
	30	障害者スポーツ振興事業	スポーツを通じて障害のある人の体力の維持・向上や、機能回復等を図るとともに、社会参加を促進するため、市内の障害者スポーツ大会開催、障害者のためのスポーツ教室や水泳教室の開催に必要な支援を行う。	障害福祉企画課	障害者スポーツ教室参加者数	R7	1,033人	R5	1,100	人	1,163	人	105.7%	障害者スポーツ教室新規参加者数	R7	233人	R5	250	人	503	人	201.2%	51,760	50,624	順調	障害者スポーツ教室参加人数については、令和5年度を上回る1,163人となり、新規の参加者は、約半数を占めた。新規の参加者が多かったことは、障害のある方の社会参加の促進に繋がったと考えられる。今後も継続してスポーツに親しんでいただけるよう、スポーツ教室の開催場所や内容について関係団体と連携を図る。	継続